

大東文化大学経済学会（2019 年度）

学生懸賞論文等募集要項

（1）懸賞論文部門

大東文化大学経済学会では、毎年、経済学会の学生会員である本学部所属の学生を対象に「懸賞論文」等を募集しています。今年度は「懸賞論文」・「研究ノート」・「エッセイ」・「博物館小論文」を募集します。それぞれの部門の募集要項をよく読み、奮ってご応募ください。なお、募集要項は（1）「懸賞論文部門」と（2）「研究ノート部門・エッセイ部門・博物館小論文部門」の2つに分かれておりこの募集要項は「懸賞論文部門」について書かれていますので、ご注意ください。

§ 1. 執筆について

懸賞論文部門

本年度は（1）経済学の有用性、（2）AIと雇用、（3）財政とポピュリズム、（4）自由テーマの4つのテーマを設けて募集します。どのテーマについても、自分自身で考えることが必要です。この懸賞論文の機会を通じて、皆さんの知的探求心をいかに発揮し、日頃の勉学の成果を形にしてみましょう。

募集テーマ

次の4つのテーマから1つを選択し、テーマに関する説明をよく読んで論述してください。

（1）経済学の有用性

「経済学の中身なんて机上の空論でしょ？ 貧困も不況も世の中から全然なくならないし・・・」このような声が聞こえてきそうですが、本当にそうなのでしょうか。またもしそれが正しいのであれば、なぜ経済学部が日本中の大学にあり、多くの学生がそこで経済学を学んでいるのでしょうか。

経済学の成果が直接的、または間接的に世の中で活用されている場面は少なくありません。また皆さん自身が何かを決めるときにも、経済学の考え方が何かのヒントを与えてくれているかもしれません。現実の社会と経済学との結びつきを思い浮かべながら、経済学を毎日勉強している皆さんの視点から「経済学が世の中でどのように役に立つか」をぜひ考えてみてください。

（2）AIと雇用

人工知能（AI）は囲碁や将棋で人間に勝る手を打つようになってきています。産業においても、AIはこれまで人が行ってきた作業に取って代わるようになっており、仕事の効率化に役立っています。他方で、沢山の人が必要だった仕事もAIが受け持つようになるため、雇用を奪ったり、職種自体がなくなったりすることもあるかもしれません。AIは私たち人間のライバルになるのでしょうか。あるいは、AIが新たな仕事を生み出すのでしょうか。様々な可能性と対応策・政策について論じてください。

（3）財政とポピュリズム

民主主義社会で決められた政策は、民意が反映されているため私たちの生活を豊かにするように思えます。しかし近頃、ポピュリズムという言葉で表されるような大衆迎合的な政策を掲げる政治家が選ばれる現象が目につきます。また、ポピュリズムが世の中を席卷するようになると、財政規律を無視した政策が選ばれてしまうという批判もあります。このような民主主義制度の中で避けることのできない、

財政とポピュリズムの関係についての実態を明らかにしたうえで、この問題を解決する手立てを自由に考えてみましょう。

(4) 自由テーマ (ただし、経済および経済学に関連するものに限る)

皆さんが普段から抱いている知的関心や好奇心が上記の1～3のテーマに含まれない場合、こちらを選択して論述してください。経済および経済学に関連していれば、理論、歴史、制度、思想、統計、海外事情など、テーマは自由です。研究動機、問題の立て方、議論の進め方、すべてについて皆さんの論理的思考力と分析力が問われます。学生ならではの視点や問題意識を是非、発表してください。

応募規定

- 応募資格者は大東文化大学経済学部在籍する全ての学生です。
- 応募論文は未発表かつ日本語で書かれたものに限り、ます。
- 応募資格者の共著（2人以上の執筆）も認めます。共著の場合は、各執筆者の論文に対する貢献部分（担当）を別紙に記して提出してください（可能な範囲で構いません）。
- 論文は、ワープロソフトで入力のため、8,000字以上12,000字以内に収めてください。概ね40字×36行で、6～8ページ強の長さになります。
- 二重投稿（同じ論文を他の論文コンテスト等に重複して応募すること）は禁止します。
- 経済学演習成果発表会での発表テーマと同一テーマの論文も受け付けます。ただし、前年度までの成果発表会において発表した内容を論文にして提出する場合は、審査員から受けたコメントやアドバイスをもとに改善・応用・発展された内容のものに限り、ます。その場合、成果発表会での発表内容と論文の違いを別紙に記して提出してください。

論文の体裁

規定の投稿用フォーマットを使用してください。

1. 表紙にタイトルと執筆者全員の学科・学年・所属一所属ゼミ(〇〇ゼミ)/基礎演習クラスの担当教員名(基礎演習〇〇先生クラス)/所属なし・学籍番号・氏名を必ず明記してください。
2. 本文の冒頭に目次を付けてください。また本文には、必ずページ数を打ってください。
3. データ図表は本文中に入れてください。ただし、字数には換算しません。
4. 書籍や新聞等の文献から引用及び発想を転用した場合は、それらを明記してください（表記方法については別紙参照）。また、ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記し、プリントアウトした資料を添付してください。
5. タイトルの後に総文字数を入れてください(タイトル・目次・文献リストは除く)。

§ 2. 提出方法・結果発表等について

応募締切日・発表

- ・ 応募締切日

2019年11月5日(火)17時

- ・ 表彰式の日時・場所

2019年12月経済学演習成果発表会会場(板橋校舎多目的ホール)

応募者全員に審査結果を伝え、入賞者には別途、表彰式について連絡します。

- ・ 掲載可否

一定の水準にあると認められた論文は『学生懸賞論文集』に掲載されます。『学生懸賞論文集』への掲載可否は編集委員会で審議・決定します。

- ・ 審査

編集委員会が審査します。表彰・賞金は以下のとおりです。

- 経済学会賞(1件以内)副賞(賞金10万円)
- 優秀賞(2件以内)副賞(賞金5万円)
- 佳作(4件以内)副賞(賞金3万円)
- 一年生奨励賞(2件以内)副賞(賞金2万円)

また、入賞者以外で応募規定を満たし、編集委員会が一定の水準を満たしたと認めた論文全てに、参加賞が与えられます。

応募先・問い合わせ先・その他

1. 応募先

- ・ tsubuku@ic.daito.ac.jp 経済学会編集委員 津布久 将史
- ・ Word ファイルで提出してください。
- ・ メールの件名を「2019 懸賞論文部門応募」としてください。
- ・ メール本文に、「学科」、「学年」、「所属 所属ゼミ(〇〇ゼミ)・基礎演習クラスの担当教員名(基礎演習〇〇先生クラス・所属なし等)」、「学籍番号」、「氏名」を記入してください(共著の場合は代表者を筆頭にし、全員の分を記入してください)。

注：応募者には、受領確認の返信を行います。万一、応募から2~3日経過しても返信がない場合、再度、お問い合わせください。

2. 問い合わせ先

tsubuku@ic.daito.ac.jp 経済学会編集委員 津布久 将史

3. その他

- ・ 編集委員会の判断により、入賞者の所属・氏名を公表することがあります。
- ・ 応募にかかわる個人情報は本コンテスト以外の目的では使用しません。

以上